



災害 -地震-

地震発生時の行動を考えましょう

地震はいつ起こるかわかりません。地震が発生した時に命を守る行動をとれるよう、日頃からイメージしておくことが大切です。

発生時の行動

⚠️ まずは身を守る行動を!! ⚠️

- 緊急地震速報や、大きな揺れがあった時は、身の安全を最優先に行動しましょう。
- 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」場所に移動し、揺れが収まるまで様子を見ましょう。



発生直後(揺れが収まった後)の行動

◎火元の確認

- 火を使っている時は、揺れが収まってから、あわてずに火の始末をしましょう。
- 出火していたら落ち着いて消火しましょう。



◎あわてた行動はけがのもと

- 屋内では、転倒や落下した家具類、割れたガラスの破片などに注意しましょう。
- 窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さないようにしましょう。



◎出口を確保

- 揺れが収まったことを確認してから、ドアや窓を開けて、避難ができるように出口を確保しましょう。



◎危険な場所に近寄らない

- 屋外で大きな揺れを感じたら、ブロック塀や電柱、自動販売機など、倒れるおそれがあるものには近づかないようにしましょう。



発生後の行動

⚠️ 避難するかどうかの判断を!! ⚠️

火災などのおそれがなく、家の耐震性に問題がなければ、まずは在宅での避難生活を考えましょう。自宅での避難生活に備え、食料や水などを備蓄しておきましょう。
※家庭での備蓄は8ページをご覧ください。



避難が必要な場合

家屋が倒壊するおそれや、火災の発生、土砂災害のおそれがある場合は、状況に応じてより安全な場所に避難しましょう。

◎正しい情報の把握に努めましょう

- 災害時にはデマやうわさなど不確実な情報が出回りやすいのでラジオやテレビ、行政機関などから信頼できる情報を入手しましょう。

◎避難の前に安全確認をしましょう

- 避難が必要になった時は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めて避難しましょう。

停電への備え

停電が発生するとさまざまな支障が生じますが、日頃からの備えがあれば、多少の不便があっても自宅でも過ごすことができます。停電への備えを確認しましょう。

◎懐中電灯や足元灯など照明器具の備え

夜間、出入口や床の段差、ガラスの破片が見えないなど、周囲の状況が確認できないと危険です。懐中電灯や足元灯を準備しましょう。

◎モバイルバッテリーや電池など電源の備え

スマートフォンや携帯電話は、情報収集や連絡手段として有効です。モバイルバッテリーや電池、車から電源をとるためのコードなどを準備しましょう。

◎カセットコンロなど調理器具の備え

IH調理器は、停電時は使えません。カセットコンロ(予備のカセットボンベ)などを準備しましょう。

◎ポータブルストーブなど暖房器具の備え

電気式の給湯・暖房設備は、停電時は使えません。電池式のポータブルストーブなどを準備しましょう。

◎車の燃料の備え

車では、テレビやラジオなどの視聴や、シガーソケットからの電源確保、暖房など、さまざまな用途に活用することができます。日頃から車の燃料を補給しておくことを心がけましょう。

最新の停電情報は、北海道電力ネットワークのホームページまたは、LINEで確認することができます。



LINE



ホームページ